

日韓市民ネットワーク・なごや

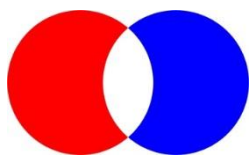
한일 시민 네트워크 · 나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

会報 No. 63
2012 -12- 17

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



目次

紺青

- P 1 巻頭特別寄稿
- P 2 事務局通信
- P 4 会の活動報告とお知らせ
- P 8 会員の広場
- P 9 会員の活躍
- P 10 編集後記

顧問：李 尚勲
事務局
事務局
会員：長澤 進
事務局
事務局

巻頭特別寄稿

中部韓人会が発足しました！

顧問 李 尚勲 (リ・サンフン)

日韓市民ネットワーク・なごやの皆さん、いかがお過ごしですか？ 今年も残りわずかとなりましたね。今年にはヨーロッパに起因する経済不安の暗い影が全世界をおおいました。日韓関係も領土問題が原因で一気に冷え込み、市民たちの交流にまで影響が及んでいるのは残念の極みです。ただ、そんな中でも日韓市民ネットワーク・なごやの皆さんは光州から学生交流団を迎え入れ、奈良の法隆寺や東大寺を案内した上、3泊4日のホームステイを実行されました。世相はどうあれ、交流の道をしっかり歩いている会員の皆さんに敬意を表します。

また、韓国、大邱市の寿城池では5月に、池を造った功労者、故水崎林太郎翁の追慕祭がありました。70年も前に世を去った人に感謝をささげるため、韓国や日本から多くの人々が追慕祭に参加したという便りは心暖まるものを覚えました。また、水崎翁の墓地が名所案内のルートに乗ったというニュースも嬉しい限りでした。



懇親会での 李さん(右端)

さて、名古屋では11月3日に記念すべき出来事がありました。ここ30年ほどの間に、韓国から来て名古屋周辺に住みついている、いわゆるニューカマーといわれている人たちの組織、中部韓人会(略称)が発足したのです。背景には1980年代中盤ころから韓国人学生の日本への留学が本格化し、卒業後も、就職や結婚で本国に戻らず、日本で暮らす人たちが多くなったことがあります。私たち夫婦も同じような事情で名古屋に住みつき、子供たち3人も日本の教育を受けながら、地域に溶け込んで暮らしています。発足した中部韓人会には、正会員、準会員、特別会員などの制度があり、誰でも参加できるようになっています。なお中部韓人会に先立って全国では、東京、大阪、九州などの地域に、すでに韓人会が発足しています。中部韓人会がこれから何をしてゆくかについては、現在議論中で、まだ詳細



中部韓人会創立式典

は決まっていません。しかし、地域社会との連携、こどもたちの留学、就職、結婚、医療など様々な分野にわたる検討が必要だと考えています。当然、日本に永らく住んでおいでのオールドカマーの代表組織である民団の人たちとも良い協力関係を作っていくことが大切と考えています。

さて今回の中部韓人会の創立式典には名古屋韓国総領事館をはじめ、愛知民団からは鄭 博団長、在日本韓人会連合からは白永善会長ほか多くの方々が参加され、お祝いの言葉を頂きました。また日韓市民ネットワーク・なごやからは後藤統括幹事に出席してもらいました。中部韓人会は、まだ生まれたばかりの赤ちゃんですが、いずれ大きく立派な組織に育って行くだろうと期待しています。

最後になりましたが、会員の皆さん、これからは本格的な冬を迎えますので、お体に充分気をつけてお過ごし下さい！

事務局通信

사무국 통신



鄭 博 民団団長の姿も(中央)

事務局統括幹事 後 藤 和 晃

1, 会の“15 周年記念交流会”にぜひご参加を！

～ 2013 年 2 月 9 日 ～

来る 2013 年 2 月 9 日（土）に私たちは“日韓市民ネット”の満 15 周年を記念する交流会を（右記により）開きます。会員の皆さんには、ぜひ足を運んでいただくようお願いしておきます。会が発足したのは忘れもしない 1998 年 2 月 7 日のことでした。きっかけは前年の 1997 年に韓国人留学生の李尚勲（リ・サンフン）さんが名古屋国際センターの民間大使に就任し、1 年にわたって韓国や韓国文化を理解するための講座を開かれたことでした。この時、隣国である韓国をもっとよく知りたいという多くの市民が講座に参加し、特に深い関心を示した人たちが会の結成に参加したのです。発足時のメンバーは 30 数人、当時の日韓関係はまだ荒れ模様で、市民交流もほとんど見られない時代でした。しかし私たちの会は、そんなことはお構いなく、韓国各地の組織や大学などと次々と親交を結びました。



2012 年の新春交流会（琥珀にて）

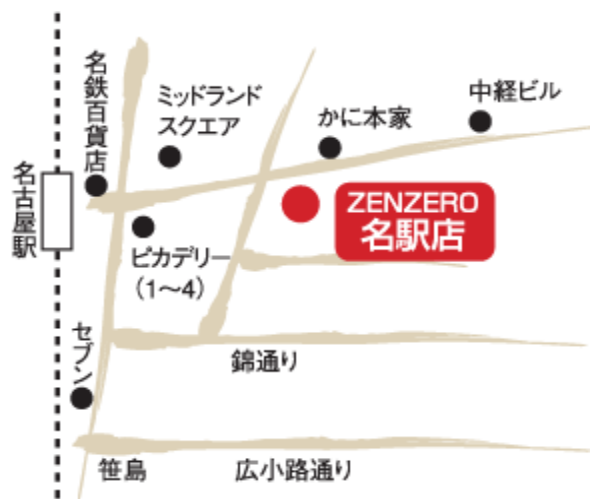
例年のように学生交流団を迎える一方で、こちらからも学生や一般会員の旅行団を送り続けてきました。会が発足してから 15 年、私たちが交流の足がかりを持っている都市は、ソウルを始めとして大邱、光州、釜山、大田、扶余など、韓国の主だった都市を網羅しています。

多彩な交流を重ねた結果、この間に会員の瀬尾文子さん（時調研究家・故人）、後藤和晃（本会事務局）、武井一さん（日比谷高校教員）の 3 人に駐日韓国大使から感謝の意をこめて賞状が贈られてきました。また事務局の後藤和晃には交流先の大邱市から 2001 年に名誉市民の称号が、さらに 2011 年には光州 YMCA から感謝盾が贈られてきました。以上の栄誉のうち、瀬尾さんは、永年の時調の研究で、また武井さんは韓国語の普及に努力したということで、お二人とも個人の努力を認められての受賞でした。しかし私（後藤）に贈られた賞は、明らかに後藤個人ではなく、韓国からの交流団のホームステイや歓迎パーティ、それに韓国人留学生との数々の交流イベント等々に、ひたすら笑顔で参加して頂いた会員の皆さんを対象にしたものに違いありません。会員のお一人お一人に賞状を贈るのは難しいことから、事務局が右代表として与えられたものでしょう。

いずれにしても、来年 2 月 9 日は 15 年間を、ひたすら共に歩いた皆さんと、過去を振り返る一方で、未来志向の日韓関係をどう築いたら良いかなど語りあってみたいと思います。顧問の皆さん、協力者の方々、留学生会のメンバーにも出席してもらう予定ですので、ぜひ、お出かけください。

日韓市民ネット 15 周年記念交流会

- 日 時 2013 年 2 月 9 日 (土) 17:00 から
※当日は 16:50 までに おいでください
- 場 所 名 駅 東、ミッドランドビルの南隣にある
琥珀ビル2Fイタリア料理店 ゼンゼロ
※右記の地図参照
- 参 加 費 成人 5000 円 学生 2000 円
- 申込方法 同封のハガキで 1 月 10 日までに申込む一方
同封の郵便振替用紙で 1 月 15 日までに、
お振込みください



2, 北陸に見る高句麗・渤海

～ 金沢・能登 古代紀行 ～

私たちは今年5月から6月にかけて、中国東北部(旧満州)に古代朝鮮の高句麗・渤海の栄光の歴史を訪ねてきました。この紀行に参加された会員の皆さんをはじめ、日韓交流史に関心を持っておいでの方々も含め、来年の4月初めに金沢・能登方面に歴史紀行を行ないたいと思います。7世紀から9世紀頃にかけての時代、加賀(金沢周辺)と能登は対岸の高句麗・渤海に開かれた古代日本の北の玄関口でした。金沢市の海岸部や能登の福浦(ふくら)港は、使節が入出港にしばしば利用し客院と呼ばれる宿泊施設も置かれていたと考えられています。



氣多大社

来年4月の金沢・能登へ日韓交流史を訪ねる紀行の概要は下記の通りです。案内して頂けるのは、日本における渤海遺跡研究の第一人者・金沢学院大学教授小嶋芳孝さん(歴史学・考古学)です。参加者募集の案内は来年1～2月頃発送しますが、参加を希望される方は、今から日程を確保しておいて下さい。



福浦港

金沢・能登古代紀行 ・ 概容

1. 日 程 2013年4月5日(金)～7日(日) ※5日は金沢泊、6日は七尾泊
2. 主要訪問地 金沢古代港湾関係遺跡・石川県埋蔵文化財センター・羽咋市寺家遺跡・
氣多大社(祭神は朝鮮渡来?のスサノオの子孫)・志賀町福浦港(渤海への出港地)・七尾市蝦夷穴古墳(高句麗系石室)・万行遺跡(弥生以降の巨大建物群遺跡)
雨の宮古墳群(5世紀の前方後方墳と前方後円墳)・珠州市製塩作業場・珠州焼資料館 など
3. 参加募集人数 25～30人
4. 参加費用等 旅行社に問い合わせ中

会の活動報告とお知らせ

모임의 활동 보고와 통지



1, 留学生 杉原千畝の故郷訪問

～ 岐阜県 八百津町 ～

10月20日(土)、秋晴れの日名古屋大学や名古屋工業大学に留学中の韓国人学生をマイクロバスに乗せ、多数のユダヤ人の命を助けた“人道の外交官”杉原千畝(すぎはら ちうね)の故郷、八百津(やおつ)町に行ってきました。外交官 杉原千畝は、第二次世界大戦のさなか、ヨーロッパの小国リトアニアの領事でしたが、ナチスに追われているユダヤ人たちのために外務省の指示に背いて、日本経由米国行きのビザを大量に発行、6000人のユダヤ人の命を救います。

杉原は日本の敗戦後、外務省から追放され、厳しい後半生を歩みますが、イスラエル政府は彼の行為に深い感激の意を表明、彼の故郷、八百津町に日本語のできる交流員を常時、駐在させています。

この日、留学生たちは太平洋戦争中に建設工事が行われ、朝鮮から動員された若者たちからも多くの犠牲者を出した丸山ダムや、剣豪 宮本武蔵が禅の修業をしたという、大仙寺や二天の滝なども訪れました。



小型バスで八百津へ



木曽川の手前が八百津町

☆ 留学生 感想文 ☆

(1) 杉原千畝の故郷を訪れて 名古屋大学 李 哲孝(イ・ Cholヒョ) ～ 留学生会長

すばらしい天気となった10月20日(土)の朝、私たちは名古屋・栄で日韓市民ネットの皆さんと落ち合い、一緒にバスに乗った。行き先は岐阜県八百津町で、最初に訪ねたのは、緑色の水を大量に湛えた丸山ダムだった。何も知らずにそのダムを見れば、深い谷間の出口にある景色の良いダムとしか見えないだろう。しかし、ダム建設の歴史を聞くと、晴れわたった青空の色さえ悲しく感じられるほどだった。

丸山ダムは、太平洋戦争の時代に建設が進められたそうだ。高さ100メートル、堤長260メートルという巨大なダムの建設工事には常に危険がつきまっていた。作業員の中には、韓半島の各地から動員された若者も多く、危険な作業の中で次々と命を落して行ったという。今、ダムの全景が良く見える展望台の一隅に工事の犠牲者たちの慰霊塔が立っている。悲しい歴史の現場であることを静かに語っているようだ。



丸山ダム

現在でも、ここまで訪れるのが難しいのに、太平洋戦争当時、祖国からはるかに離れたこの谷間にトラックで運ばれて来て、ダム工事の犠牲者となった人たちがいたという事実を私は決して忘れないだろう。このような悲劇はもう二度と繰り返してはいけない。

次に向かったのは“人道の人” 杉原千畝の記念館だった。山の頂にある記念館の中は、鳥の声も木の葉の騒めきも聞こえず、静かで厳粛な雰囲気包まれていた。私たちはそこで沢山の資料展示や、ビデオを見て“人道の丘” 杉原千畝の歩んだ人生を詳しく知ることができた。

「ユダヤ人たちに日本経由のビザを発給してはならない」という外務省の重い指示がある中で、彼は見も知らないユダヤ人のために、心の声に従ってビザを発給する決断をする。



杉原千畝の銅像と記念館



ダムを見る留学生

国の指示に反するのだから、その後の人生に大きな荒波が襲ってくることは容易に予想できたであろう。しかし杉原は人道の道を選択し、6000人の命を救った。人道の人、杉原千畝の決断は今後も人々の尊敬を集めつづけることだろう。

将来、私もある決定的な状況で、その選択が多くの人たちの幸福に資する——と考えられる時には、（自分の利益、不利益は考えず）ためらいなくその選択をしたいと思う。

今度、いい機会を下さった日韓市民ネットの皆さんへ、感謝の言葉を伝えたいです。日本に留学中という得がたい機会を通して、より勉強し、より成長したいと感じています。これから日韓市民ネットの方々のように、韓国と日本、両国の友情をつなぐため自分も頑張ります。これからも留学生会と皆さんとの関係がより深められますよう、すばらしい事を一緒にしていきたいと思います。

(2) 杉原千畝の信念に感動

名古屋大学工学部 皇甫 度均（ファンボ・ドギョン）

このたび、日韓市民ネットワークの見学旅行で岐阜県八百津町にある色々なところへ行ってきました。

その中で一番印象に残ったところは杉原千畝記念館でした。第2次世界大戦争のとき、ナチスドイツのユダヤ人弾圧から数多くのユダヤ人の命を救ったドイツ人のオスカーシンドラーの話は映画にもなり、良く知られています。しかし、同じく数多くの命を救った日本人外交官、杉原千畝の話は、あまり知られていません。私もこの旅に参加する前は、この話を耳にしたことがありませんでした。当時、日本はドイツと同じく戦争を始めた方で、同盟関係でした。政府からユダヤ人救出の許可が下りる可能性はゼロに近かったですが、外交官である杉原は個人の力で2000家族以上の人に脱出の機会を与えました。

ここで感じたことを何とか生かそうと、杉原の生涯を私の現在に代入してみました。



杉原千畝・手書きのビザも展示中



私の人生で、命令に従い自分の身を温存するか、他人の命を救うかの両者選択の場が訪れるとしたら、自分はどのような答えを出せるのだろうか。恐らく杉原の話みたいに劇的かつ極端な瞬間はないでしょうけれども、自分のすべてを知り尽くした上で(後悔しない選択をするのであれば) 杉原がビザを発給するような勇気を私は育てきっていないという結論が出ました。そして、その理由は「人の命を救わなければ！」というような切実な思いが欠けているのではないかと思います。僕の本命は研究だと決めた以上、その信念を成し遂げるための行動に出ないといけないと思いました。

この旅をきっかけに、自分の信念を形あるものにするために、自分の中に問いを求める機会が出来てすごく嬉しかったです。このような機会を与えて下さってありがとうございます。

(3) すばらしいバス旅行でした！

名古屋大学 李 智熙 (イ・チヒ)

秋の爽やかな一日、淑徳大の女の子たちや日韓市民ネットの皆さん方と一緒に、岐阜県の山あいの町、八百津町にバスで行ってきました。

八百津出身の外交官、杉原千畝の名前は、留学生会長のイ・チョルヒョさんから教えられるまで全く知りませんでした。また第二次世界大戦のさなか、ヨーロッパでは600万人ものユダヤ人の命がナチスの手によって奪われた事は有名ですが、当時日本の外交官が本国の指令に反して沢山のユダヤ人にビザを発行して、その命を助けたということも当然知りませんでした。

杉原千畝の記念館を訪れ、彼の手書きのビザに接するなどして彼が6000人ものユダヤ人の命を救ったという事実を確認し、深い感動を覚えました。彼のことを“日本のシン德勒”と称える人もいるそうですが、それも当然のことだと思います。

それにしても、国の指令に背けば自分の立場を失い妻も子もひどい境遇に落ちるかもしれないのに、時間のある限りビザを書き続け、多くの命を救った杉原の行為には心打たれました。

韓国人とか日本人とかの国籍など全く関係なく、人間として本当に尊敬できる人物だと思いました。

八百津では記念館の外にもダムや寺、山の中の滝を散策するなどして一日を楽しく過ごすことができました。

留学生の身では「良い景色があるから行っておいで！」と言われても、移動手段のこともあり、おいそれと出かけることは出来ません。また良い機会があったら、ぜひ声をかけてもらって同行したいと思います。本当にありがとうございました。



モニュメントの前で

2, 映画“道・白磁の人”を上映

11月7日(水)の夜、名古屋の愛知県韓国人会館で映画“道・白磁の人”が上映されました。

この映画は、戦前、朝鮮の山々の緑化や朝鮮工芸の保護に努め“朝鮮人の友”と呼ばれた林業技師、浅川巧(あさかわたくみ)のひたむきな生き方を描いたものです。当日は東海三県から会員も含め170人を越える人たちが来場し、2時間もの映画を熱心に鑑賞しました。上映中、浅川巧と朝鮮人の友人たちが民族の壁を乗り越え、絆を深めてゆく姿に思わず涙する人たちの姿が目立ちました。

～ 韓日歴史・文化フォーラム第30回記念 ～

この作品は、会員の一人、李純子さん(一宮市)の松本市に住む弟さんなどが、「日本人と韓国人の心がより強く結ばれる一助に!」と映画制作を訴えたことから実現したものでした。

今回、2005年に始まった韓日歴史・文化フォーラムの第30回記念という形で上映されることになったのも、私たちの会からの提案だったことを申し添えておきます。

3, 中日新聞「草の根 最前線」に、当団体の活動が紹介されました!

4年) 10月1日(月曜日) 中 日新聞

草の根 最前線

戦争や竹島の領土問題でしこりが残る日本と韓国。「日韓市民ネットワーク・なごや」は韓国の若者にホームステイしてもらうなど、市民レベルの交流機会を生み出している。

「奈良に残っている宝物は、日本の植民地支配時代に奪われたのではなかった」

八月上旬、韓国南西部の中核都市、光州の会社員女性3人は、ネットワークが企画した奈良県への旅行で東大寺や法隆寺を訪ね、朝鮮半島の仏像などが仏

日韓市民ネットワーク・なごや(名古屋)

教文化とともに日本へ渡ったことを聞いた。これまでの誤解が解け、日本への親しみが深まったという。十一二十代の学生や社会人をほぼ毎年夏、

市民レベルの交流推進

韓国各地から招いていた。名古屋を拠点に四泊五日ほど滞在。キャンプに行くなど会員とも交流する。

「日本人と韓国人は親戚のような人種。お互いをよく知れば、争いはなくなる」。ネットでは先頭に立ち、名古屋や日進市の大学生、高校教諭、会社員ら十人の中核メンバーと企画を立てている。

講座を開き、大学教授や歴史資料館の専門家らに、日韓交流の歴史を語ってもらう。大学生の会員らが韓国へ行き、肌で文化を学んでいる。

ホームステイした韓国の大学生が、留学で自ら日本へ戻り、友情の輪を広げることもある。

後藤さんは言う。「日韓の間に暗雲が垂れている今こそ市民が交流する意義は高まっている」(伊藤隆平)

法隆寺の関係者から日本文化を学ぶ韓国の大学生たち=奈良県斑鳩町で(日韓市民ネットワーク・なごや提供)

日韓市民ネットワーク・なごや 1998年2月に会員30人で設立され、ことしで活動は15年目。現在は名古屋を中心に県内、岐阜、三重などに20～80代の会員が120人いる。戦前に韓国で生まれ、終戦後に帰国した日本人、日本在住の韓国人もあり、幅広いネットワークを広げている。



こちらでは会員の皆様の声を載せております。
皆様から、「会員のみんなに伝えたい！」「韓国のここが好き！」は勿論、「こんな旅行して来た」等、日々の暮らしの様子などの皆さんの声を是非、お送り下さい。

1. 教育の破綻を憂う

会 員 長 澤 進

戦後70年日本の最近の教育の荒廃は凄まじいものがあります。殆ど連日、いじめ、不登校、学力の低下、家庭内暴力、海外留学生の激減、大学卒の就職難、介護の破綻による親子関係のわだかまり、どれを取ってみても根本問題は教育の行き詰りに帰するようです。

高齢になった自分自身の過去に対する感傷的なノスタルジーから言っているつもりはありません。戦前ほどの家庭にも沢山の子供がいました。お互い喧嘩もし、食べるものもない、ましてや家庭教師、塾などは縁遠く、過保護なんて言葉も見当りませんでした。

それでも国は、子供に対して一応の理念があり、徳育・知育・体育を求めて教育に携わっていたはずで、何時の世にも完全な体制は望めませんが、今では昔との乖離^{かいり}があまりにも大きいと思われます。教師、学校、教育庁に食って掛かるモンスターペアレントもいます。自己の非を棚に上げ、次々とトラブルを起こす厄介者です。

人が人生を生き抜くためには、しっかりした目標＝生きる目的が必要です。今どきの学生のほとんどが目標を持っていない中で医師の子ども達だけは「絶対医者になる！」という目標を持っています。何故医師の子弟は殆ど親の医院を継ぐのでしょうか？それは単純で明確な目的があるからに他なりません。親代々が投資して充実させてきた医院という膨大な資産をすんなりと継承するためなのです。医師の子どもや一部の例外を除いて今の大概の子供若者達には残念ながら夢とか希望がありません。どんな人間にも必ず夢や希望、目的を持たせば将来必ず大成する筈です。卑しくも人として生まれて来たからにはそれなりの生きる目的、希望が持てる世界があって当然です。

今こそ幼児教育の必要性が叫ばれなければなりません。三歳児までに適度の遊び、躰^{からだ}け、思いやり、いたわりの心情を植え込まねばなりません。少子化による過保護は最たる弊害をもたらしました。自己中心で自立心がなく、全て人のせいに帰する態度は困ったものです。俺が俺がと誰もが自己主張して、周囲に多大な迷惑を撒き散らしています。

今の政治家の言動を見れば一目瞭然でしょう。他人の意見を率直に聞けない纏まりのないわがままな輩^{やから}が跋扈^{はつこ}しています。こんな政治家に日本の将来を託すことが果たして出来るでしょうか。



故山会演奏会で尺八演奏を披露される長澤氏（中央）

幼児にはある程度の放任も必要だと思います。幼稚園では園児には出来るだけ怪我をさせないように先生方は配慮しています。学校やマスコミも細心の気配りをしているようですが、元来、児童は率先して失敗、怪我を繰り返し、独立心を養い、自らの我儘を抑えるようにしなければなりません。公文教育の理想は繰り返しの継続にあると思われますが、これは正しく理に叶った重要な一つの方法でしょう。横峰式保育園の幼児教育も、ごく、ありふれた処方です。

元来ドイツ語で教育とは *erziehung*、英語では *cultivate*、詰まり、引っ張る、耕すという意味です。決して上から押し付けるべきではないはずです。自由に独立心を植え付けるのが最上でしょう、礼儀正しく、何時でも、誰にでもハイと素直に言える子供に育てるべきです。素直さが求められます。溺愛は全く悪です。

愛は教育の課題ですが親子の絆はどんな処でも断ち切る事は無いと確信出来ます。少なくとも10歳まではスパルタ式で結構でしょう。愛の鞭は必要です。中国の小皇帝は甘やかし、過保護がもたらした社会的弊害でしょう。

以前から語学等の早期の幼児教育がありましたが、鉄は熱い内に打て！三つ子の魂百までもと云います。またそれなりの環境問題、家庭社会の課題もあり、親の背を見て育つとも云います。世相の悪さは、家庭内の教育の不具合に原因があるはずです。どれがベストなのかは分かりませんが現在では五里霧中 混沌としています。世情の鏡が映し出されているようです。

蝌蚪一つ黒き紐より泳ぎ出す

第四回「伊吹嶺」秀句賞



11月3日 文化の日、「伊吹嶺」全国俳句大会
(於 名古屋観光ホテル)で、表彰される山本氏

山本 玲子 (岡崎)

略歴

昭和十九年八月七日満州大連にて生まる

平成二十一年十月「チングルマ」句会入会

平成二十二年より伊吹嶺入会



俳句を始めて二年しかたっていない私にとり、今回の出来事は青天の霹靂以外の何ものでもありません。ある旅行で飛行機の隣席が偶然山下先生でお話して、いてこれは徒者ではないぞと。人としての魅力、大さき、美しさに惹かれ、「この様な方のお近くにいたらこんな風になれるかも。」などと不届きな考えもありまして、短歌か俳句かと選択を迷っていたのが嘘の様に即座にチングルマ句会に入会させていただきました。

知らぬことばかりの私に山下先生、句会の先輩方が惜しみ無くお教え下さり本当に有難く感謝致しております。皆様のお蔭でいただけました賞であり、これからの励みともなることと存じます。句会は楽しくもあり、また苦しくもあるものと知りましたが、この身から離すことなく精進して参るつもりでございます。この後ともどうぞよろしくお導き下さいませ。有難うございました。

井上 靖代

海霧が重く流るる旅順港 靖代

こんなことをいうと叱られるかも知れませんが、この句には少し嘘があります。旅順港が全く見えなかったのは事実ですが、夏の霧ですから本当は割と明るいのです。それが表現しなかったのですが、力不足でこんな風にしか出来ませんでした。

今年の七月、本来は好太王碑等、高句麗の遺跡を見に行く旅でしたが、大連に降り立って二百三高地の見学もさせていただくことができました。それから中国東北部の旧高句麗地域へ向かいました。

少しも知りませんでしたが、碑のある集安や延吉、つまり北朝鮮の東北部には多くの韓族が住んでいて、中国の少数民族という扱いで今も生活しているのです。戦争や災害、飢饉のあるたびに流れてくるそうです。延吉と韓国の空港とは日に何便も飛行機が行き来しています。

高句麗は鴨緑江を越えて活躍したわけで、鴨緑江の岸にも立つことができました。緑の季節でもあり美しい鴨緑江から対岸の北朝鮮を眺め、人が生活しているのだろうかと思ひ、夕暮にもう一度出かけて、灯がほとんどないわねえといつて戻りました。北朝鮮にこそ高句麗の立派な遺跡が沢山あることですが、いつか行けるでしょうか。残念ながら近くて遠い国を実感した旅でした。

私の海外詠

「伊吹嶺」11月号より



旅順港



鴨緑江の岸に立つ 井上氏（中央）

＜編集後記＞

退職して半年余り、家のあちこちを片付けたり趣味の吟行に出掛けたり、韓流歴史ドラマを何時間も観たりして過ごしましたが、11月からちょっとしたアルバイトを始めてしまいました。働き蜂の悲しき習性(笑)とでも申しましょうか。一日4時間程度の勤務は体調にも良いようです。

健康で働けることに感謝！ (蜜穂)

会報 63 号は 後藤統括幹事・総合指揮のもと

原稿入力・印刷 武田章敬

編集確認・発送 大嶋 明

佐藤昭子

編集作業・発送 伊藤みつ子 が担当致しました。

お楽しみ頂けましたら幸いです。